



有害物質から子どもを守る会（秋田・宮城）

会報 No. 24 子どもへのコロナワクチン接種⑦

「コロナワクチンと生理不順：文献を探す」（2022/1/7）

コロナワクチンの副反応については、血栓症や出血、心筋障害、自己免疫疾患など、報告は多い。今回は Report-23 で問題にした不正性器出血、生理不順について文献を調べてみました。特に生理不順は卵胞・排卵に密接に関係すると思うので“covit-19 vaccination”と“menstrual cycle”や“menstrual irregularity”などを key words にして Pub Med で検索してみました。

<コロナワクチンによる生理不順のシステムミックレビュー>

Covet-9 vaccination と menstrual cycle で 110 論文が出ました。menstrual のあとに cycle length とか、disturbance とか irregularity, changes, abnormality などの用語が使われ、menstrual でやり直すと 288 論文がでてきました。多すぎるので systematic review を加えて 3 用語で 7 論文が出ました。題名を読むと 2 つのシステムミックレビューがありました。

① Effect of COVID-19 vaccination on the menstrual cycle. Front Med (Lausanne). 2022 Dec 16;9 : Chao M J, et al.

この論文は初のシステムミックレビューだと書いてある。2018 年 12/1~22 年 7/1 の質の高いもの 4 つを選んだという。合計 25,054 人で、ワクチン接種群はと非接種群に比べ有意に生理不順の頻度は高いが、irregularity の内容は多彩であると述べている。

② Menstrual abnormalities after COVID-19 vaccines: A systematic review. Vacunas, 2022, 23: S77-S87. M Nazir et al.

著者はパキスタンの医科大学所属で他に 7 人。14 論文の 78,138 例のうち、39,759 例 (52.05%) が接種のあと何らかの月経問題を持っており、異常の頻度は 0.83-90.9% と広い幅があり、年齢、妊娠歴、全身的副反応、喫煙、接種回数などがその頻度に関係していたという。(発生頻度に論文による幅が大きすぎて参考にならない。)

<日本の施設からの英文報告>

“covit-19 vaccination” “menstrual cycle” abnormality で検索すると 14 の文献がでた。中に日本からの報告があり、日大医学部の並木隆弘らの報告で、2022 Aug のもの。日本医科大学と付属病院の関係者で、接種を受けた 819 人中の 424 人について検討した。

不正性器出血：1 回接種で 2 人 (0.6%)、2 回接種で 3 人 (1.0%)、3 回接種で 9 人 (3.0%)

不規則月経周期：それぞれ 6 人 (1.9%)、15 人 (4.9%)、20 人 (6.6%)

(月経周期の異常頻度は不正出血の頻度より多く、コロナワクチンが卵胞により大きな影響を与えている可能性を示している。)

The association of three doses of the BNT162b2 mRNA vaccine with abnormal bleeding and an irregular menstrual cycle among premenopausal females: A single institute observation study. J of Obstetrics and Gynecology Research 2022/11, 2903-2910: T Namiki, et al.

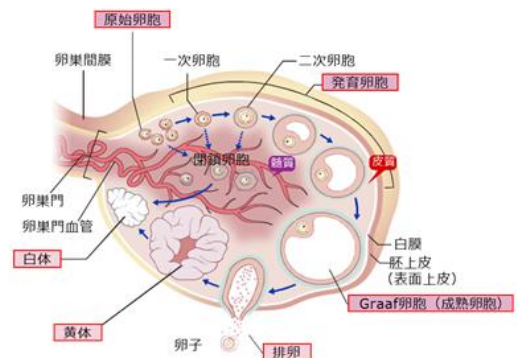
<感染とコロナクチンのどちらの影響が大きい？>

米国とカナダの13人の専門医が行った調査で、3,858人の閉経前の女性について、ワクチン非接種とワクチン接種の2グループについて、2011年1月～2021年12月まで、コロナ感染の前後、コロナワクチン接種の前、9.2年間の観察。421人(10.9%)が新型コロナに感染、3,527人(91.4%)が接種を受けた。ワクチン接種を受けた女性は受けなかった女性と比べ、「生理期間の有意の延長」が見られた。特に接種後の6カ月に延長、7-9カ月、9カ月以降と延長は少なくなる。一方、新型コロナ感染症では生理不順は認められなかった。

A prospective study of the association between SARS-CoV-2 infection and COVID-19 vaccination with changes in usual menstrual cycle characteristics. Am J Obstet Gynecol. 2022 Jul 13; 227(5): Wang S, et al.

<英国政府の報告>

「Coronavirus vaccine—summary of Yellow Card reporting, Updated 21 December 2022」(health care products の安全性のモニター事業の一部)の中に、「menstrual disorders(period problems) and unexpected vaginal bleeding」という項目があり、文献の蒐集と専門科の検討が行われ、ファイザーとモデルナのワクチン接種が、多量の不正出血と関連がある可能性があるものの、多くは一過性であると記している。ただ2022年11月までに51,695例の生理障害が報告され。生理が重い、「生理が遅れる」、予想されるより出血が多いという報告があったという。しかし8810万回の接種なので、異常は低頻度(0.059%)だとしている。(異状を報告するのと、集団を観察するのとではこのような頻度の違いができる。)



<卵巣で何が起きるのか？>

脂質ナノ粒子は卵巣の脈管系の内皮に接触・融合し、スパイク蛋白が作られ、細胞外に放出される。リンパ球がスパイク蛋白に反応すると同時に、一部の人で、内皮障害に伴う血栓・出血を起こし、また産生されたスパイク蛋白が卵巣組織に漏出し、卵巣にあるいろいろな発育段階の卵胞や黄体に影響を与えるのではないだろうか。3回の接種で1割以下の女性に起こる変化なので、公的な機関やメーカーは「問題なし」として、勿論、不妊も恐らく起こらないとしている。

<感想>

つわりの時期に服用したサリドマイドが起こした奇形を思い出す。奇形は上肢だけに起こるのではない。私は薬害を受けた本人から、「奇形は自分のからだ中、いたるところにあります」と聞いた。卵胞への影響は胎児の発生の最も初期の段階のもので、重大に考える必要がある。女兒の卵巣には約500コの原始卵胞がある。新型コロナ感染症は卵胞への影響はない。新型コロナ感染症は致死率ではA型インフルエンザ並みになった。子どもには新型コロナ感染症はもともと軽症である。コロナワクチンは子どもには打ってはいけないと思う。大人でもワクチンは打たず、かかったら休養が一番安全だと思う。

ここでコロナワクチンは一休みにして、次号ではHPV・ヒトパピローマウィルスワクチンを検討します。(文責：加藤純二)